
R-TYPE とある戦闘記録

unrealnext

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R - TYPE とある戦闘記録

【Nコード】

N83820

【作者名】

unrealnext

【あらすじ】

R - type Tactice2のあの提督の部隊と地球連合の部隊が戦ったらこんな風になるのかなと思って書いたお話です。作者は初投稿なのでおかしな点があったらどんどんいって下さい。お願いします。

(前書き)

この小説はR・TYPEの二次創作です。そんなもんいらねえよと
いう人は見ないで戻るのボタンを押してください。それでは3・2・
1 Lets Go!

R - TYPE

冥王星巡航艦隊の Rwf - 9A のパイロットは追い込まれていた。メインエンジンがいかれ始め、レールキャノンもすでに打てなくなっていた。幾数の閃光が幻想的な空間を飛び交い、そのたびにこちらの戦艦の反応が消滅していく。巡航艦隊は機動性の確保のために足の遅いヘイルダム級や母艦であるアングルホダ級などはいない。それでも巡航艦のガルム級が3隻、駆逐艦のニースヘッグ級が5隻、ヨルムンガンド級2隻もいる。R戦闘機は R - 9a が3個小隊、R - E1 が1個小隊、R - 9B1 が2個小隊、R - 9DH が1個小隊、TL - 2A が2個小隊、TL - 2AT が1個小隊いる。そしてこれらのパイロットは前作戦「Last Dance」の生き残りです。それなりの腕を持っていた。これだけの戦力を持つ艦隊が1時間もしない内に半分になっていた。

これがバイド大規模艦隊に襲われたというのなら説明はつく、この艦隊で対応できるのはA級バイド1体が関の山だからだ。しかし今艦隊を襲っているのは大規模艦隊でもなければ複数のA級バイドでもない。たった5機のゲインズなのだから。

戦艦の残骸の中に逃げ込んだ自分はただただゲインズが自分にきづかず通り過ぎてくれるのを祈るしかなかった。

が、世界は常に悪い方向にばかり進んでいく、レーダーには接近特化型のゲインズ3が自分に向かって一直線に向かってきているのが示されていた。

「くそ、冗談じゃない。こんな所で死ぬるか！」

フォース前方に装着し、波動砲を低出力で発射しゲインズまでの障害物を吹き飛ばし道を作る。同時に対空レーザーを放つが、相手は左腕についているエクスカリバーを巧みに動かし此方の攻撃を防ぐ。

まずナノマシンで強化されている人間でも無理な動きだ。ミサイルを4発撃ったがそれも3発は難なく回避され、それどころかミサイルを足場にして更なる加速をつけて迫ってきた。回避行動をとるためにザイオング慣性制御システムを使った高速移動を行うが、必死の努力も虚しく敵との距離はだんだんと迫ってきていた。今度はフォースを後ろに回しつけ換えて迎撃しようとしたところでエネルギーゲージがほとんど尽きていることに気がついた。ふと「絶望」という文字が目の前を横切る。

(ここまです……)

そう思い、自分を殺す敵をよく目に焼き付けておこうとしたところあるゲージが目にとまった。

? ドースゲージ 96.56%?

どうやら勝利の女神は自分を見捨ててはいなかったらしい、この干渉地帯で逃げ回っていたことによりフォースのドース値がほぼ100%にまでなっていた。勝利への布石を整えるため近場の中型の小隕石にフォースを打ち込みドース値を上げる。なんの抵抗を見せなくなつたためかゲインズは警戒を解いて両腕の武装を展開して突撃してきた。それと同時にドース値が100%になったことが脳にナノマシンを通じて知らされた。

「くたばれ、くそつたれ野郎。」

死神の鎌を持って迫りくるゲインズに中指を立てて、フォースのドースを開放する。

たった3秒間、たった3秒間だけ自分の周りが白い光に包まれ、そして自機とフォース以外の物に対して全てを無に返す暴虐のかぎりを尽くした。その攻撃にいくら接近戦に特化し装甲を強化されているゲインズも耐え切れず、最後は怨みを込めたような目で此方を見、そして光の中に消え去った。

リーダーを見ると他のゲインズが撤退していくのが解った。どうやら今自分が倒したのが奴らの隊長のようなものだったみたいだ。最近のバイドは人間のような動きをするな。と思いつつ勝利したとは

言えない惨状の艦隊に戻りグリトニル基地へと撤退した。この時の艦隊の数は戦闘開始時と比べて10分の1以下になっていた。

(後書き)

前書きでLEOのネタ使っているのにLEOを出さなくて本当にすみません。どうしても、いや、駄目だ。という人がいたらケンロクエンに掘られてくるかTeam R-typeに逝って新型戦闘機の実験dもといパイロットになってきます。

最後に作者のこんな駄文を見てくれて本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8382o/>

R-TYPE とある戦闘記録

2011年10月8日03時49分発行